

RPF製造販売事業における廃プラスチック中間処理の効率化

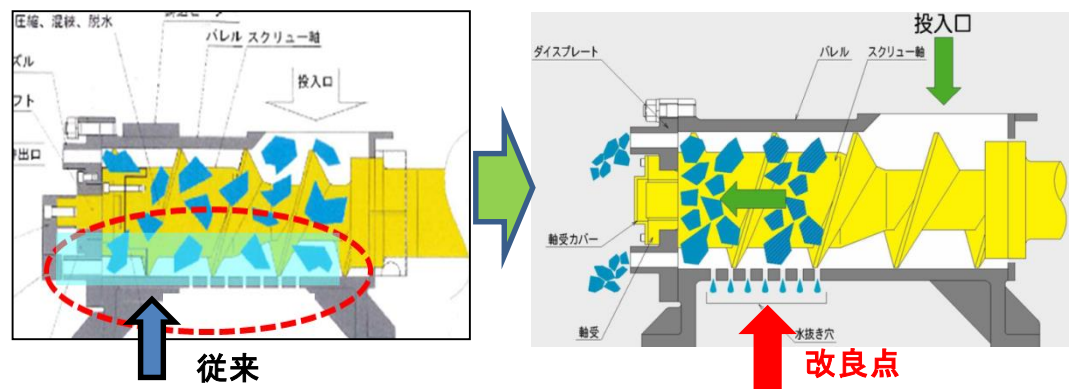
事業実施団体：株式会社市川環境エンジニアリング

リノベーション・実証の概要

当社はベトナム国ハノイ近郊において、従来埋立処分されていた廃プラスチック等を固形燃料化(RPF化)し、ボイラーユーザーに対して販売している。しかし、原料の含水率が高いことが生産効率の低下、電力コストの増加、及び燃料製品品質の不安定化の原因となっている。

本事業では、現地で生じる含水率の高い廃プラスチックの処理に適した造粒設備を導入することで、RPF生産における効率の向上及び省電力化、並びに増産されたRPFの販売により化石燃料代替を促進することによるCO2削減を目指すものである。

導入する技術：脱水機構付のRPF造粒機



従 来： 造粒機バレル内に余分な水が溜り、成形時の障害となっていた。  
 改良点： 下部に脱水孔を設けることで成形前に含水率を下げる。

対象とする国・地域の概要



地図データ©2017 Google

・経済発展の著しいベトナム国ハノイ周辺部はプラスチック廃棄物が増加しており、有効なリサイクル技術が求められている。

・現地企業におけるボイラー燃料としてのRPFの需要は大きい。

対象とする国・地域における事業化・普及の見込み

<事業化見込み>

- STEP1: 2017年 脱水装置の実装、試運転を完了
- STEP2: 2018年 当該設備のベトナム国における最適運用方法の検討と立案、品質の作り込み、メンテナンス体制の構築
- STEP3: 2019年 当該設備にてRPF供給先の拡大

<普及の見込み>

RPF製造能力を2020年までに1,000t、2025年までに2,000tまで増強する。並行して、再生紙工場や製紙工場等向けの場内中間処理設備として、2025年までに3か所に同システムを導入・操業することを目標とする。